国立新美術館 THE NATIONAL ART CENTER, TOKYO　MORI ART MUSEUM　ASIA center JAPAN FOUNDATION

報道関係者各位　　No. 2015-058-P1

PRESS RELEASE 2016 年 2 月 4 日

国立新美術館、森美術館、国際交流基金アジアセンター共同シンポジウム「日本は東南アジアの現代美術にいかに関わってきたのか？」開催

―2017年夏の展覧会共同開催に向け、リサーチプロジェクトが進行中！―

国立新美術館、森美術館、国際交流基金アジアセンターは、2017年夏の展覧会共同開催に向け、2015年、リサーチプロジェクト「SEAプロジェクト：東南アジアの現代美術――1980年代から現在まで」を立ち上げ、ASEAN10 か国を中心に協働で調査活動を開始しました。「SEA プロジェクト」では調査のプロセスも重要な要素であると考え、これらを早い段階から公開・共有するため、このたび、ウェブサイトを開設するとともに、展覧会までの約一年半、プレイベントを継続的に実施する予定です。その第一弾として、2016 年2月 27 日（土）にシンポジウム「日本は東南アジアの現代美術にいかに関ってきたのか？」を開催します。

本シンポジウムでは、1980 年代以降日本がいかに東南アジアの現代美術を研究・紹介し、どのような議論を展開してきたのか、また日本のパフォーマンス・アートが東南アジアでどのような役割を果たしてきたのかを改めて検証します。
前半のプレゼンテーションでは、1979 年の開館以来、アジアの近現代美術の研究と交流に貢献してきた福岡市美術館、1999 年にその活動を継承した福岡アジア美術館の活動、ならびに 1990 年のアセアン文化センター設立から形を変えて続く、国際交流基金の東南アジアでの活動を振り返り、1990年代以降、東南アジアのパフォーマンス・アートの発展に大きな貢献をしてきた日本国際パフォーマンス・フェスティバル［NIPAF］の活動も検証します。パネルディスカッションでは、SEA プロジェクトのキュレトリアル・チームもディスカッションに加わり、これからの東南アジアと日本の交流において、過去の蓄積をどのように活かすことができるのかを議論します。つきましては、貴媒体にてシンポジウムのご紹介、当日のご取材をご検討下さいますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

■シンポジウム開催概要 「日本は東南アジアの現代美術にいかに関わってきたのか？」

【日時】:　2016 年2月 27 日（土） 17 時～19 時 30 分
【会場】:　国立新美術館 3階講堂
【登壇者】:　後小路雅弘（九州大学人文科学研究院哲学部門教授）
古市保子（国際交流基金アジアセンター美術コーディネーター）
霜田誠二（NIPAF：日本国際パフォーマンスアートフェスティバル代表）

【プログラム（予定）】　進行／米田尚輝（国立新美術館研究員） ※同時通訳あり
17:00　プロジェクト・イントロダクション／南雄介（国立新美術館副館長）
17:05　プレゼンテーション（各 30 分： ①後小路雅弘 ②古市保子 ③霜田誠二）
18:45　パネルディスカッション＆質疑応答
モデレーター／片岡真実（森美術館チーフ・キュレーター）
19:25　閉会のごあいさつ／ 南條史生（森美術館館長）

【申し込み】　※入場無料　森美術館ウェブサイト　www.mori.art.museum
申し込み受付開始：2016 年2月4日（木）　定員 250 名 ※定員に達し次第、受付終了

◇ウェブサイト　「SEA プロジェクト」 http://seaproject.asia/
2016 年2月4日より公開。「SEA プロジェクト」の調査記録だけでなく、これまでの研究に基づく参考文献などを順次アップロードしていく予定です。

●主催者・本事業に関するお問い合わせ： 国際交流基金 アジアセンター（担当：村上、佐野） Tel: 03－5369－6140
●取材に関するお問い合わせ： 国際交流基金 コミュニケーションセンター（担当：川久保、森）
Tel: 03－5369－6089 / E-mail: press@jpf.go.jp

＜参考＞

展覧会について

【開催概要】
会期:2017 年7月5日[水]～10 月 23 日[月]
会場:国立新美術館、森美術館
主催:国立新美術館、森美術館、国際交流基金アジアセンター

多くの国々が、戦後から1990 年代にかけて徐々に独立・民主化した東南アジアでは、現代美術の表現においても、植民地主義以降の新たな国家建設、国家のアイデンティティ、欧米主導のモダニズムの受容と固有の文化的伝統との葛藤などが、主要なテーマとして表現されてきました。1980 年代には、欧米の形式主義に相対する物語性、神話や呪術性なども注目されましたが、経済成長や近代化が進み、国際的にも多文化主義、現代美術を取り巻く制度のグローバル化が拡大した 1990 年代以降には、新しい課題や表現も見られるようになります。

「SEA プロジェクト」(※)では、国立新美術館および森美術館のキュレーターが、1980 年代以降に生まれた東南アジアの新しい世代のキュレーターと協働することで、歴史に根差した今日的な視点を繋ぎ合わせていきます。そこでは、これまで語られて来なかった歴史に眼を向け、新しい物語を描こうとする姿勢、都市化や近代化が進行するなか、地方都市や地域コミュニティの文化や記憶の維持・再発見へ向けたコレクティブな活動、ハブ空港の出現や LCC の普及による域内での活発な移動や交流、さらには、公的な現代美術への制度的支援が未発達ななかで、自ら状況に変化をもたらそうとする DIY 的でパフォーマティブな活動などが、大きな関心事として浮かび上がってきます。また、各地域でのこれまでの近現代美術の発展をアーカイブ化し、教育を通して次世代へ繋ぐことへの強い関心も感じられます。

2015 年1月から始まった現地調査からは、経済成長や進歩主義的な積極性だけでなく、停滞、失速、改革、喪失、転置など多方向に変化する社会環境のなかで、自分たちの「いま」を生きる前向きな姿勢が見えてきています。2015 年度から 2017 年度にかけて、こうした東南アジアの現地調査を継続しつつ、同時に各地域、分野の専門家との知的交流も深めながら、本展では極めて多様な道を辿ってきたこの地域の現代美術を、日本の観客といかに共有できるかを模索していきます。

※「SEA プロジェクト」は展覧会共同開催に向け現在活動中のリサーチプロジェクトの名称で展覧会タイトルではありません。

【キュレトリアル・チーム】
国立新美術館: 南雄介、米田尚輝
森美術館: 片岡真実、荒木夏実、近藤健一、椿玲子、熊倉晴子
オン・ジョリーン(マレーシア)、マーヴ・エスピーナ(フィリピン)、
グレース・サンボー(インドネシア)、ヴェラ・メイ (シンガポール)

●主催者・本事業に関するお問い合わせ: 国際交流基金 アジアセンター(担当:村上、佐野) Tel: 03－5369－6140
●取材に関するお問い合わせ: 国際交流基金 コミュニケーションセンター(担当:川久保、森)
Tel: 03－5369－6089 / E-mail: press@jpf.go.jp